

2020年に繋げていくための「提言」 (案)

資料4

1. プログラミング教育の本格導入に向けて本事業成果の活用を

- 教育委員会・学校では、本事業で開発した様々な教材や講座ノウハウを、プログラミング教育を知らない教職員に対する基礎情報として活用を
- 学校現場では確保できる時間に制約があることから、年間指導計画・単元指導計画・指導案等に取り込んでいくためには、「未来の学びコンソーシアム」で今後公開する実施事例を参考に

2. 学校現場におけるICT環境の現状に即した講座実施を考える参考に

- 「ひとり1台」が理想だが、現実としてICT環境整備が追いついていない学校は依然多くあると認識。本事業でも限られたICT環境の中での実施事例を紹介

3. 地域との連携によるメンター確保の推進

- 「未来の学びコンソーシアム」での学校現場に対する人的支援体制の検討状況を見据え、大学・高専での地域貢献活動、企業のCSR活動、生涯学習施策による市民団体と連携する等、地域ぐるみでメンター確保し、外部人材の積極活用を

4. プログラミングとの向き合い方を必要以上に構えないで

- 教職員は、児童生徒のプログラミングへの適応力が高いことを踏まえ、「どうやって児童生徒に教えるか」を心配するのではなく、「児童生徒と楽しみながら一緒に学ぶ」へと意識転換を

5. 特別支援教育でのプログラミング教育に向けて本事業成果の活用を

- 本事業では、特別支援教育におけるプログラミング教育についても、障害の特性に応じて実施事例をまとめているので、基礎情報として活用を